

かかわり方を身につける — 上手な断り方 —

目的

本校は、素直で正直な子どもが多い。しかしながら、自分の都合が悪い時や、自分が良くないと思ったことについて、友だちから誘われた場合、断ることは苦手である。そこで、学級活動や集会活動をとおして、「人間関係を保ちながら、上手に断わる方法」を身につけていくことにした。

内容

● 学級活動や集会活動をとおして

- ねらい 人権集会に向けて仲間づくりを行い、児童相互が尊重し合う人間関係を培う。
- 計画

月	内 容
10月	○学級のテーマ作成（例：誰にでも やさしい言葉を使う ○年○組）
11月	○「仲間づくり」や「言葉づかい」についての道徳、特活等における実践（例：5年「どのように伝えればいいのか」） ○「笑顔発見コーナー」の設置（友だちのがんばりやよいところを紹介するコーナーを設ける）
12月	○人権作文の放送（例：「なかよしイベントでの出来事」） ○昼休みの仲間づくり活動（例：「8の字大縄とび」等を学年を越えて行う） ○人権集会：全校テーマ『笑顔を大切に みんなで協力して 絆を深めよう ゆうかりっ子』（発表例：5年「気持ちの伝え方チャンネル」）

3 5年の学級活動「どのように伝えればいいのか」

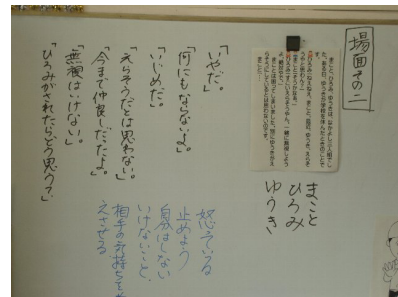
(1) 学習課題 相手の気持ちを考えながら自分の気持ちを主体的に伝える方法を考えよう。

(2) 学習活動

子どもたちの普段の生活場面を例にあげ、その時の気持ちや対応の仕方を考える。

(3) 児童の反応

相手を傷つけずに、自己主張をする必要があるためロールプレイの最初は戸惑ったが、相手に伝えるポイントを理解し、スムーズにできるようになった。



4 5年の発表「気持ちの伝え方チャンネル」

(1) 目的 人権教育強調月間に学んだ、人との関わり方を発表し、実生活で活用する。

(2) 発表内容

友だちから遊びの誘いを受けた時、どのように断ると相手を傷つけず、より良い人間関係を築いていけるか、タイミング、表情、身振り等ポイントごとにパネルディスカッション形式で、全校生に発表した。



成果

- 人権集会を参観した保護者の言葉から
 - 5年の発表は、現実社会でとても役立つと思います。
 - 「わかってもらうことの大切さ」「知ることの必要性」を表現できていた。
- 人権集会後の教員の感想から
 - 子どもたちの日常での言葉遣いが良くなってきた。
 - 高学年の子どもが、低学年の子どもを気遣いながら遊ぶ姿がよく見られるようになった。

